

Product Liability NEWS

12号

1. Jan.2023

PL 対策

検索



【発行元】

一般社団法人 PL対策推進協議会（略称：APL）
〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町 35-28
TEL：050-6865-5180 FAX：022-247-8042
E-mail：c-japan@pl-taisaku.org



2023年 謹んで新春のお慶びを 申し上げます

新年明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ感染の影響に加え突如ロシアがウクライナに武力攻撃し、その結果食糧、エネルギーなどに大きな打撃を受けあらゆるものの価格に影響、さらに1ドル150円を越える超円安に至り、経済活動から日常生活にまで大きな負担となっています。

国防もこれまでの専守防衛から敵地攻撃を可能にする「本質的な防御」に舵を切りました。このことと食品などの安全対策も北米での「バイオテロ法」によるFSMA204として「エンド to エンド」のデジタルトレーサビリティが必須になる社会に突入しました。受け身の安全対策から積極的に未然防止を行う本来の安全対策になります。

食品だけでなく、EUでは「デジタルプロダクトパスポート DPP」というトレーサビリティのルールが活発に論じられています。国内政策だけを見てはやはり手遅れになることが多く出てくると思われれます。

特に重大事故や食品や飲料では生命に直結するような欠陥や食品などでは故意も含めた異物混入などがあると出荷量の多いものであるほどその被害は甚大なものになります。日本では過去に森永グリコ事件、サリンや炭疽菌事件などが起きております。攻撃されてからは間に合わないからこそ、消費者市場の自社製品の安全対策に事業者は積極的に出荷後の B2C デジタルトレーサビリティを行わねばならなくなりました。

当協議会の「安全点検アプリ」がなぜ GS1 標準で利用しているのかの答えは B2C トレーサビリティにあります。これからはこの B2C のデジタルトレーサビリティのできないものは販売しにくくなります。わかりやすい取説もまた電子化しいつでも必要な時にユーザーが見れるようにする、最新の PL 対策はモバイル社会を積極的に利用した新たな展開にシフトしています。

今年も一年、当協議会の情報を活用いただき、高度な製品の安全対策を推進してください。

2023年1月1日
一般社団法人 PL 対策推進協議会
会長 渡辺吉明



協議会 HP でも新年のご挨拶を動画で公開しております。

新年度からの取り組み

APL
PLnews

2023年1月号

動画を活用して学習しよう！

当協議会の新年度の取り組みとして、APL の Youtube ビデオチャンネルを作りました。様々な電気製品や雑貨、家具、住宅設備、食品、飲料などの製品の安全に興味ある人に向けて、最新の情報・基礎的な知識を得られるようにわかりやすくお伝えします。

当協議会の講習やセミナーなどに参加が難しい方、PLの知識を一から学びたい方、APLの活動を知りたい方などに向けて、1本5分程度の入門的な動画を準備して参ります。



APL 公式チャンネル

動画を入り口として、興味を持たれた方は是非セミナー・有料講習の参加、PL 検定の受験など、ステップアップしてください。

立ち上げ次第新着情報やメルマガ等にてお知らせします。

メルマガ登録はこちら

https://pl-taisaku.org/?page_id=4253

Facebook や twitter で情報発信中です



APL Facebook ページ

これまで、当協議会 HP、メルマガ、PLnewsなどで情報発信を行ってきましたが、新しく APL の Facebook ページを立ち上げました。協議会の情報だけでなく、速報性の高いニュースや日々のちょっとした役立つ情報など、ざっくばらんに更新していく予定です。お気軽にフォローしてください。



APL Twitter ページ

道具で世界に笑顔を



〒955-8655
新潟県三条市塚野目2341-1
<https://www.takagi-plc.co.jp>



木製家具で常に新しい生活空間を創造

カリモク家具

〒470-2191
愛知県知多郡東浦町大字藤江字皆栄町108番地
<https://www.karimoku.co.jp>

当協議会のメルマガ、PLnews などでお知らせした PL 研究学会の製品リコール研究部会による第 2 回製品リコール検討委員会が下記の通り開催された。

- 2022 年 12 月 22 日 14:00~17:00
- 参加者 会場参加 8 名
- Zoom 参加 約 30 名

食品安全強化法 (FSMA) 204 条は、バイオテロを想定した食品トレーサビリティに関する米国法であり、End to End すなわち「畑から食卓までのデジタルトレーサビリティに関する法律」で、2023 年 1 月 20 日に発行され 2026 年 1 月 20 日よりデジタルトレーサビリティが報告義務となる。違反すると米国内でのその企業の商品は全て販売できなくなり、米国の FDA が直接査察に入るという大変厳しい規制である。

海外のデジタルトレーサビリティの状況に対し、国内では役所の縦割りの中での統一感がなく表示対策で追われている感がより一層明確になった。これでは国内の食品メーカーから FSMA204 に関する問い合わせが全くないという JETRO の報告も納得できる。

実際の海外の実証などを通して、B2C (FSMA204 は患者や食卓まで) のデジタルトレーサビリティについては課題を多く抱えているようである。一方、製品リコールのデジタルトレーサビリティを研究し既に実用化を図っている当協議会の「安全点検アプリ」は国内でのグロサリー分野 (食品、雑貨) だけでなく医薬品にも利用できるもので、今後、GS1Japan が中心になり GS1 標準の推進を図り今後 3 年間で FSMA204 の食品トレーサビリティなどの認知と対応方法の普及を進めるためのワーキンググループを設置する方向である。また、この検討委員会において各方面の専門家とともに課題抽出、解決の手立てなどを早急に進めていく予定である。なお、雑貨分野もリチウムイオン電池のものが急増、食品、雑貨あらゆるもののリスク対策として、B2C デジタルトレーサビリティによる製品リコール対策も同時に進めることが重要と思われる。

(副委員長 渡辺吉明)

画像クリックで資料が閲覧
できます。



東京海洋大学 松本隆志委員長発表資料



JETRO 石田達也様発表資料



(株) 野村総合研究所 水谷 禎志委員発表資料



PL 研究学会 渡辺吉明副委員長発表資料



GS1Japan 岩崎 仁彦委員発表資料



PL対策専門講習のご案内

AFL
PLnews

2023年1月号

最新の PL 対策を学びたい方に向け、当協議会ではさまざまな場を提供し、またその知識の整理確認を証明するために PL 検定を行っています。

一方、個人的なスキルとしての検定には関心がないが今後の新たな業務改善やコンサルティングの中で、正しい製品の安全対策を具体的に組み込みたいなどのニーズに対応する「専門講習」を行っています。

初回は対面で行いますが、2～3 回目は Zoomd 受講も可能です。

詳しくは協議会 HP を
ご覧ください。



この専門講習は「コース1」と「コース2」で構成されており、各講習は3回（各2時間）です。

①基礎講習

PL 検定初級テキスト（受講料に含まれています）を使い、主に製品の安全に関する国や世界の状況を、作るだけでなく販売する側の規制や取り組み、流通小売側の標準化の動向などを通し、最新の製品の安全対策の基礎となる知識を学習いただけます。すでにご存知の方も知識確認をしてください。

※1：初級検定を受験したい方はテキストに同封された条件で無料で受験できます。

※2：既に初級・上級合格者はこの講習を免除できますので、事務局より費用をお伝えします。

※3：特に要望がなければ個別ではなく複数名参加で行います。

②専門講習 1

基礎講習で得た知識をさらに専門性を高め、より詳しくテキストの内容に沿って重要なポイントを説明します。テキストには記載されていない新しい情報などもここで解説します。

※1：上級検定合格者は事務局より割引の連絡いたします。

※2：自社の規定などで個別対応が必要な場合は事務局と日程などを調整してください。

③専門講習 2

具体的な事例を元に zoom を含め対面で行います。zoom を社内の都合で使えない場合は、受講者の設定するテレワーク環境に講師が参加します。より具体的に守秘性高く自社の体制や取説などの改善についてのアドバイスを得るには東京オフィスにて講師と直接講習を行うことが可能ですので事務局に相談ください。

コース1

体制整備と Black Mode 対応

通常業務をより効果的に製品安全対策を組み入れ、サイレントチェンジや法律・基準などの国の要求項目を達成、さらに万一の際の製品リコールの効果的な成果を上げるための要求項目などを点検していただきます。

①基礎講習 (2時間)

②専門講習 1 (2時間)

③専門講習 2 (2時間)

PL 検定 (初級) テキスト (無料)、最新! PL 対策解説書 2022 (別途購入) を使用します。

受講料 55,000 円 (一人)

コース2

取扱説明書と本体表示など

正しい消費者対応のできる取扱説明書の作成や本体表示の相関を見直し、企業イメージの向上と表示の高度化を進める具体的なアドバイスを行います。

①基礎講習 (2時間)

②専門講習 1 (2時間)

③専門講習 2 (2時間)

PL 検定 (初級) テキスト (無料)、取扱説明書ガイドライン 2022 (別途購入) を使用します。

受講料 55,000 円 (一人)

「必要」な情報を届けられるか

先日、会員の方から興味深い情報をいただきました。

とあるミネラルウォーターですが、キャップにQRが印刷されています。スマホでアクセスすると公式販売サイトに移動するのですが、商品レビューにおいてクレームが寄せられていました。

曰く、「お客様に出すものとして購入したのに、お客様に関係ない注文ページへアクセスさせるのは辞めてほしい」とのことでした。

確かに、QR にアクセスすると商品の注文ページへ移動しますが、ページをよく見ると下の方に商品の情報や特徴が記載されています。おそらく、メーカー側の意図としてはそれらの情報を優先的に伝えたかったものと思われます。

メーカーが消費者のためにと情報を発信しても、それが本当に必要な情報かどうか、また上記のように情報の見せ方によっても消費者の捉え方が大きく異なってしまいます。取扱説明書や本体表示でも同じことです。消費者のことを考え情報をきちんと精査し、それをどう伝えるか、情報発信の難しさを改めて考えさせられました。(菅野 裕)



を実際にご使用いただく方に、より詳細な商品情報をご提供するため、キャップにQRコードを印刷しています。の商品ページに遷移します。

キャップに印刷されたQRビューにおいてクレームが寄せられていました。

リチウムイオン電池発火による火災に見舞われた2022年 三条市 (新潟県)

本年は私の住む新潟県三条市では公共施設でのリチウムイオン電池発火による火災が続いた。3月にゴミ焼却場そして最近では11月に警察署車庫でリチウムイオン電池発火が原因と思われる公共機関火災としてニュースでも伝えられました。

三条市HPでも11月1日に『リチウムイオン電池などの充電式電池の捨て方』というページを設け、啓蒙していた矢先での11月21日の警察署車庫火災が発生した。ちなみに三条市HPでは下記項目が発信されています。

- ・指定ゴミ袋に入れてごみ収集に出さないでください
- ・次のマークのある小型充電式電池のうち一般社団法人JBRCの会員企業の電池はこのマークが掲示されているリサイクル協力店に持ち込み処分する



- ・JBRCのリサイクル協力店で回収できない小型充電式電池や小型家電で取り外し可能な充電パックは、小型家電又は乾電池の拠点回収場所に併設している専用の回収ボックスを利用する
- ・電池を捨てる時は電池を使い切って、ビニールテープなどで端子部を絶縁した状態で回収箱に投入する

上記のように注意喚起を含め行政としても発信しているが、リチウムイオン電池発火による火災が全国的に絶えないのは使用者の意識もさることながら設計上の構造的改善が必要なのかも知れない。例えば、万が一発火が生じた場合に備え、昨今では凸版印刷が発火しても炎を抑える消火フィルムを2021年2月に販売開始した。

参照：

https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/products/fire-extinguishing_film/

このような材料を利用して万一に備えたフェイルセーフを設計に組み込むことも有効だろう。(渋谷政道)

はじめませんか?
スプーン1杯の健康習慣

JOAN INTERNATIONAL
ジョアンインターナショナル
03-3903-7607

ガッティ家のオリーブオイル 検索

GS1QR scott

取扱説明書の見直しを

首都圏担当理事 渡辺欣洋



明けましておめでとうございます。

今年は、製品安全の基本である取扱説明書の役割及び機能などの探求を行いたいと考えています。時代とともに取説の役割も重みも変わってきました。取説の内容により企業の製品安全に対する姿勢も判別され、また、モバイルの進化により利用されるレベル、可能性も多様化しています。現在の取説は、製品事故未然防止・再発防止の役割を担う位置となり、従来とは異なる重要度が増しています。今年は取扱説明書の望ましい姿の具体化を講習等を通してお知らせする方針です。

PL検定のブラッシュアップ

PL 検定・
東北担当理事 山岸義彦



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

2023 年は、当協議会が普及を取り組んでまいりました、「製品の安全」を担保する製品のトレーサビリティシステムである「scodt claud」が世に出る年になります。このシステムを下支えする「PL 検定」や「取扱説明書ガイドライン」もブラッシュアップが必要となり、多くの皆様の期待に応えられるよう取り組んでまいります。

使用者に情報を伝える

関西担当理事 中島修



新年あけましておめでとうございます。昨年末に引っ越すことになり 8 年以上経過した家電は刷新しようと思えば調べたら半数以上も該当しました。一度にはお金がないので使用頻度の少ない家電は壊れるまで使うことに。燃えないで幕を閉じる設計を信じて。製品安全の担保には自己責任の範疇が曖昧です。使用者が判断するには進行形の情報を伝えることがなにより大切なことだと思います。今年が一つの道筋が見えるよう尽力いたします。

食品情報の重要性

監事 椿克美



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの流行によって世界が停滞していましたが、ようやくモノだけでなく人も動き始めて参りました。

食品は「食べる」ことを目的として開発され、私たちはその食品で生命を維持しています。自らの口に入るものを、自らが選ぶためには、その食品に対する正しい情報が必要であり、その重要性はさらに高まると考えます。

今年度も微力ながら監事を務めさせていただきます。本年もよろしくお願ひいたします。



製品安全をブランド構築に

中越担当理事 渋谷政道



新年明けましておめでとうございます。

昨年は三条市では製品安全分科会を開催はできませんでしたが本年は開催できるよう検討しております。全国的にも広く知れ渡ってきた『ものづくりのまち 燕三条』視点での製品安全に今年も趣を置き会員企業と共に取り組んでいく所存です。

製品安全がブランド構築になる繋がるモデルタイプを地域で展開できればと思っております。本年もよろしく願いいたします。

幅広く情報発信を

事務局長 菅野裕



新年明けましておめでとうございます。

昨年は東北工業大学での講義から始まり、毎月のPLnews 発行など、個人的にも事務局としても慌ただしく過ぎていきました。

今年は1月からFSMA204の規則が発表され、食品トレーサビリティの流れも大きく変わっていくものと思われます。食品でも工業製品でも、PLの基本は販売後の事業者責任です。そのことをいかに伝えるか、広報活動に更に力を入れていきたいと考えています。本年も宜しくお願い致します。

2023年新年のご挨拶

中越担当理事 長岡信治



令和5年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、ロシアのウクライナ侵攻により燃料を含むあらゆる原料が上がり、そこに輪をかけて円安により工業製品の原材料が高騰しました。価格転嫁によりすべてのものが値上がりする中、ここで消費者が選ぶのは安心安全な製品ではないかと思えます。

そこでscodtは、GS1QRコードによるスムーズな流通と長期使用時の経年劣化による事故を防ぐための大きな役割を持つシステムです。今年こそは大手企業の皆様に認知され世に出回るよう活動したいと思えます。

謹賀新年



株式会社 三州印刷株式会社

〒955-0081

新潟県三条市東裏館 2-17-15

<https://www.nagaoka-rikoh.co.jp>

謹賀新年

おかげさまで80周年

私たちは、お客様のご要望を
「まるごと、しっかり」引き受ける
三条印刷の「まるしか隊」です。



Graphic & Media Supporting

三条印刷株式会社

■営業品目/ポスター・パンフレット・チラシ・出版(作品集・書籍・記念誌)・広告代理店 他

本社:〒955-0072 新潟県三条市元町9番3号
TEL.(0256)32-2281(代) FAX.(0256)32-2670
URL <https://sanjo-prn.co.jp>

■新潟支社
■長岡支店
■関越営業所
■上越営業所
■高崎営業所

2023 年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。今年は2 P でも説明したように、動画をどんどん活用していく予定ですのでぜひご期待ください。また、取扱説明書ガイドライン、PL 対策解説書を利用した専門講習なども用意しています。様々な学べる場を提供していきますので、ぜひご利用ください。

協議会の大きな流れとしては、FSMA204 規則の発行や欧州で動いているデジタル製品パスポート (DPP) といった社会情勢を踏まえ、BtoC における製品トレーサビリティ対策が大きなテーマとなりそうです。詳しくは冒頭の会長挨拶やメルマガを御覧ください。今後も新たな情報が入り次第発信していく予定です。



去年はセミナーや大会、講習動画の撮影、PLnews の発行など、慌ただしく過ぎ去った1年でした。本年も食品の安全に関する動向などが大きく変わり、忙しくなりそうですが、様々な情報を発信していきますので、今後も当協議会を宜しくお願いいたします。(事務局)

メルマガ登録はこちら

https://pl-taisaku.org/?page_id=4253



最新！PL対策解説書2022
税込 5,280 円

これ一冊で、最新の PL 対策
まるわかり！

ポジティブインセンティブ規制、ポジティブリスト化する法律や基準、急速に進む流通小売の動向など、製品安全の最前線で27年に及ぶPL対策の第一人者 R&D スペシャリストが書き下ろした実務書です。

皆様の業務改善、体制維持などの全てが書かれています。取扱説明書ガイドライン2022と併せて万全の最新のPL対策にお役立てください。



PL 検定初級 5,280 円 (税込)

PL 対策・体制整備・表示などの
基礎を学べます

詳しくはこちら>>

https://pl-taisaku.org/?page_id=630



取扱説明書ガイドライン2022
税込 7,700 円

わかりやすく、見やすい
消費者視点の取扱説明書

産業用機械から日用品まで、消費者市場にて使われるものを対象に「取扱説明書ガイドライン 2022」を新たに出版しました。

初心者でも作れるようにテンプレートもデータで配布します。モバイルの小さな画面でも、知識のない人でも分かりやすく正しい使用方法を伝え、誤使用の事故をなくすことを目的とし、当協議会では PL 検定受験を通し「なぜ取扱説明書が必要なのか、表示とはどのような関係なのか」も理解していただけるように支援を行なっています。